

第八回市民学校①

第八回市民学校が五月十二日から三十日まで五回にわたって大篠公民館で開かれ、初日には百人を超す市民が受講しました。

広報では、都合により受講できなかった方のために、その一部を取り上げて掲載します。

人を変え、社会を変える『言葉』

NHK高知放送局チーフアナウンサー

岩村 就司氏

「こんにちは」という言葉は、なんとなく言いにくいものです。

あいさつする言葉のなかでも「おはようございます」のように「ございます」が付くと言いやすいのですが「こんにちは」では、どこかぶっきらぼうで言いにくいという人が多いのです。

東北では「こんばんは」の代わりに「おばんでございます」が使われるのですが、なにか意味があるような気がしませんか。

このあいさつというのが非常に大きな、人を変え社会を変える言葉なのです。

三河一宮という所ではこんな運動をしています。「いちのみや」という言葉を頭に入れて「いつもここにこハイおはよう ちいさな

親切ありがとうございます のびのび明るく こんにちは みんなすなおにすみません やさしい心でさようなら」という標語が書かれた大きな看板がほうほうにあるのです。これは社会を変える言葉という意識の下で書いているのでしょうか。なんとなくてくさい活動ではあります

が、そういう気持ちで地域を守ろうという願いが非常に大きく表われていています。こうしたことはとても大事なことだと思います。

ところで、言葉という字を見てください。どうしてこんな字になったのか分かりませんが、自分なりに解釈してみると、言葉というものは木が身に着けている葉と同じようなものじゃないか、そんな気持ちで昔の人にあったのではな

いかと思うのです。新緑はいきいきとした言葉、濃い緑は内容の濃い言葉で、紅葉になると美しく、枯れ葉は言葉を作る木の養分となる。つまり言葉は全部その木の一生の役に立っています。その葉の幹がいれば人間だと思えば、地面から吸い上げた樹液の代わりが血液で、人間の言葉は血液を養分として立派な言葉になるのです。血液はどんどん新しくなっていくます。お年寄りになっても血は新しいように、新しい言葉をどんどん身につけて、言葉を大事にしてください。

言葉とは心から出て来て相手の心へ伝わるものですが、心と心をつなぐ道には言葉だけではなく、文字や身体表現も必要です。最も

大事なのは言葉で、ちょっとした言葉の使い間違いが行き違いを生じることもあり、使い方によっては非常に価値があるとともにたいへん恐ろしいものでもあります。身体的表現でも、表情によって、同じ言葉が抵抗なく聞ける場合ときつく感じる場合があります。このように、言葉と文字と身体表現の三つが総合して大事な要素を伝えていくのです。

身の回りを見てみると、今の子供は言葉が欠落しています。父親の影響もかなりあると思いますが、三語族と言われ、「めし、かね」と特に母親に対して「うるさい」の三語しか使わなくなっています。この原因は現代社会にあるのです。社会は地面に相当し、言葉作りの養分とならなければならぬのに、現代社会は言葉を切り捨てていく時代、言葉を抽象化する時代なのです。

昔はガキ大将が後輩に言葉を伝えていました。子供たちはその言葉を覚えてもらうために集まり、集団活動があったのですが、今の子供には友達関係もなくなってきた、パソコン、ワープロ等の機械が遊び相手になっていきます。言ってみれば機械文明のなかで言葉が失われているのです。その結果、言葉を知らない、漢字が書けない、読めない、文章が作れない子供が

非常に増えています。話し言葉のなかから「です」「ます」が欠落して、表現力がかなり落ちているのです。

そこで、子供に言葉を与えることが大事になってきます。それには、相手がしゃべるまで我慢する根比べみたいなことが必要かもしれません。もちろん現代社会をよく理解して相手がしゃべれる話をしなければなりません。面白い話、前向きな話をして、都合の悪い話はしない。どうしても話したいときは独り言のように、救いのある言葉を添えることが必要です。欠点をあげつらわないで、可能性を示唆するような言葉が今の子供を変える言葉じゃないでしょうか。

心をつなぐ言葉のなかで非常に大切なのがあいさつです。「挨拶」は「心を開く」で「接」は「相手に迫る」を意味します。心を開いて相手に迫るのがあいさつなのです。

あいさつで気持ちは変わります。あいさつがないと隔絶しているように感じます。そんな隔絶した社会にはしたくありません。そのためには家庭でのあいさつが必要なのです。

心から出た言葉、それが心をつなぐ言葉であり、人を変えることもできるし、社会も変えることができるのです。